

第7回美里町立小学校適正規模等検討委員会概要録

招集期日	令和3年5月14日(金)
招集場所	美里町役場 2階201会議室
開会閉会	開会 午後2時30分 閉会 午後4時57分
出席委員	委員長 松本 浩 副委員長 茂木 精一
	委員 茂木 智孝 委員 山崎 香苗
	委員 志村 弘人 委員 鈴木 薫
	委員 金子 延行 委員 丸山 耕一
	委員 中沢 一剛 委員 清水 奈津子
	委員 小林 健治 委員 堀内 晴美
欠席委員	
説明のため に出席 した者	教育長 南 幹生 事務局長 丸山 陽一
	指導主事 下田 裕美 指導主事 神部 太輔
	係長 中山 裕紀
傍聴人	3人

次第	顛末	
1 開会	事務局	
2 あいさつ	教育長	<p>新型コロナ対応については、東京や大阪をはじめ9都道府県に緊急事態宣言が拡大されるとの報道もあるが、美里町では感染防止対策を行った上で検討委員会の方を開催させていただく。</p> <p>今回は第1回検討委員会から第6回検討委員会まで、検討された内容やそこで出された意見の確認を中心に行いたいと思う。</p> <p>そして次回の第8回検討委員会では、検討委員会が町教育委員会に答申する美里町立小学校適正規模等検討委員会の答申内容の検討に入れたらと思っている。</p> <p>また、前回、保護者アンケートについてご意見をいただいた。その後事務局でいろいろ検討し、保護者アンケートについては、検討委員会の名前ではなく、検討委員会で示された答申内容を踏まえて、教育委員会の責任で実施しようと考えている。検討委</p>

		員の皆様は、保護者アンケートの事まで気にせず、純粹に将来の美里町を背負って立つ子供達にとって望ましい学校教育環境は何か、その望ましい学校環境の中でどのような教育を進めたらよいか等の視点で検討協議を進めていただければと思う。
3 委嘱状の交付 (新委員)	教育長 (委嘱期間は、前任者の残任期間の令和4年6月30日まで)	
4 自己紹介	委員、事務局	
5 副委員長の選出について	事務局	副委員長については、昨年度は前広木区長の鈴木さんをお願いしていた。本年度委員交代となったので、新たに指名することになる。 要綱では委員長が指名することとなっているので、委員長をお願いしたいと思う。
	委員長	昨年度、地元代表ということで区長の中から鈴木さんに副委員長をやっていただいた。非常に助けていただいた。 前年にならい、できれば区長の中から互選によって副委員長になっていただけると非常にありがたいと思う。
	委員	皆さんそれぞれ仕事の都合とか、色々ご都合が悪いので、大変僭越ながら私、茂木がやらせていただく。
	委員長	それでは茂木区長に副委員長ということで、この後お世話になる。
	副委員長	(副委員長席に移動)
	委員長	これから、前回会議の概要録について事務局から説明をいただき、新しく委員になられた方も「こんな事を話し合ったのか」「こんな事を題材にしていたのか」ということで共通理解を図っていきたいと思う。
	事務局	
6 前回会議録の署名について	事務局	第6回会議の概要録については、委員から署名をいただき、承認済みなので報告する。
7 議事	事務局	議事の進行については、委員長をお願いする。

委員長	<p>教育長から、前回の6回の会議をしっかりとみんな理解した上で、後の会議でしっかりと答申を出していくということが、今日の会議の狙いかと思う。事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(1)の美里町立小学校適正規模等検討委員会の経過について事務局から説明する。</p> <p>令和2年度に計6回の委員会において審議していただいた。今回4名の方が新委員として委員会に加わるということで、前回までの資料はファイルに入れて配布させていただいた。</p> <p>今まで議論いただいていた継続委員にとっては、振り返りという形にはなるが、これまでの計6回の中で、どういった話をして、どういった議論になったというところについて、今回資料を基にご説明をさせていただければと思う。継続委員は以前配布した資料を見ながら、話を聞いていただきたい。</p> <p>【資料1-1】は、令和2年度美里町立小学校適正規模等検討委員会開催状況という表である。表の上部にある、第1回から第6回までの計6回、検討委員会で会議をしてきた。</p> <p>第1回においては、検討委員会について、また美里町の児童生徒数の現状や、学級数の状況、人口推計による将来の見通しを説明した。</p> <p>第2回においては、国の適正規模・適正配置の概要ということで、国の指針に基づき、適正規模・適正配置とは何かから説明した。また近隣の状況や義務教育学校・小中一貫校の説明等をした。</p> <p>第3回においては、美里町立大沢小学校の視察を行った後、小中一貫校の坂戸市立城山学園の視察を行うにあたり、どういったことを聞いてくるかという話をした。</p> <p>第4回においては、城山学園の視察は、コロナ禍の状況で、皆さんで行くということができなかったため、事務局が代表して行ってきて、その状況の報告等させていただいた部分と、このまま人口が減っていくと複式学級になる可能性があるということ</p>

から、実際に複式学級になっている皆野町立三沢小学校にも事務局が行ってきたので、その辺の説明をした。

第5回においては、今児童数が美里町の中で一番多い東児玉小学校の視察を行った。また、施設を維持した場合、または学校を新設した場合においてどういった費用が掛かるかということ推計した。また、同規模の自治体の実例ということで、長野県佐久穂町の実例を紹介した。

第6回においては、松久小学校の視察を行った後、義務教育学校である春日部市立の江戸川小中学校の事務局視察報告と、仮に町に一校の小学校を建設してスクールバスを運行した場合の費用推計を行った。

また、保護者アンケートの実施形式について、意見を伺った。

先ほどまでの話の中で「視察」という話が出たが、実際に視察をした状況が資料の下部に示したものになる。

町立小学校は、大沢小学校を皮切りに東児玉小学校、松久小学校と、町内全小学校を視察した。

また、参考になる小中一貫校や、複式学級の設置校、義務教育学校については、事務局が視察を行い、スライド等でその状況を報告した。

大まかな開催状況は以上となるが、これから各会議の検討委員会の状況について議事録を毎回作成しているが、主だった意見等を抜粋した資料を用意した。その説明の中で、新委員に今までの議論がどう進んでいったかを理解いただきたい。

これからの時間、【資料1-2】と、各自に配布している各回の検討委員会の資料から、今までの経過を説明する。

まず、1ページの第1回会議は、令和2年7月10日に実施したものだが、まず議題として、「美里町立小学校適正規模等検討委員会について」という説明を行った。議事に先立ち、教育長から検討委員会

の委員長に諮問を行った。諮問事項は、小学校の適正規模に関する事、小学校の適正配置に関する事である。

また第1回会議の【資料1】は、検討委員会の設置要綱だが、第1条に検討委員会の趣旨・目的が書かれており、町立小学校の将来におけるより良い教育環境、充実した学校教育実現のための適正な規模、配置等を検討するために美里町立小学校適正規模等検討委員会を設置するという事を説明した。

この委員会については、学識経験者として松本先生にお願いし、各小学校の校長、区長会を代表して各地区から1名ずつ3名の方、各小学校のPTAから代表を1名ずつ選出していただいております、またその他教育委員会から必要を認める者として主任児童委員、元教育委員に出席をいただいているところである。任期は2年となっており、令和2年7月1日から令和4年6月30日までとしている。会議については、議論が深まって答申が出た時点で終了と考えているところである。

「現在の美里町の児童生徒数及び学級数の状況と将来の見通しについて」というのが、もう1つの議題である。1年齢ごと、行政区別また小学校区別で、人口や児童数の推計を行った。過去、公共施設総合管理計画策定の際、人口推計を同時に行ったため、そこから平成23年度から30年度までの人口データを使用し、一般的なコーホート法で推計を行った資料を、当日の【資料2-1】から【資料2-7】まで推計として出した。

人口推計のグラフ等を見ると分かることではあるが、美里町全体の人口推計は、将来にわたって人口の減少が予想される。また、児童数・生徒数推計においても、人口減に比例して児童数・生徒数も将来的に減っていくことは予想される。

また、小学校の児童数や新1年生の児童数についても減っていくということが想定される中で、今後クラス数の減少や、また場合によっては複式学級の可

能性もあるということで、グラフの方を示させていただきました。

また、【資料2-8】以降は、学級編制等についての資料になる。学級編制については、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に規定されているが、1学級の児童生徒数が40人というのが基準としてあり、また1年生は35人という基準があった。また、埼玉県の学級編制の特例として、2年生が35人という基準があった。

また複式学級の基準は、埼玉県の特例の方に示されている「1年生と2年生で8人」、これを切るようになると、複式学級になっていくというような、基準も示している。

また、学校規模に関しては、学校教育法施行規則において標準的な学級数を定めており、小学校は12～18学級。1学年2学級か3学級というのが標準的な学級数として定められているが、美里町の小学校においては、資料作成時点で12～18という規模を下回っている「小規模校」、それが美里町の小学校の現状であるという説明をした。

松久小、大沢小においては、1学年1学級という「単級」になっている。東児玉小においても、2学級のところもあるが、全部が2学級ではないので、こちらも「小規模校」というところに含まれることになる。

児童・生徒数等の将来の見通しについて事務局から説明させていただいたのは以上だが、皆さんから色々な意見をいただいた。

まず、「人口推計で社会増については考えていないのか」については、例えば転入・転出であるとか、政策によって人口が増えていく部分とか、そういったことを考えていないのか？という質問があったが、変動要因の推計は非常に難しい部分があり、政策によって色々変わってくる部分等もあるので、この検討委員会においては、そういったものを排除し、単純にコーホート法を用いたと説明した。

また、「通学距離の国の基準が『小学校 4km 以内、中学校 6km 以内』とあるが、美里町の現状はどうなっているのか」との質問があったが、美里町においては概ね基準に合っていると答えた。

また、「グラフの中で 2008 年に大沢小学校の児童数が 100 人を切ったが、その時に委員から、地元では廃校や統合の噂が出たという話があり、その時にもこういった検討委員会が設置されたのか？」という質問があったが、事務局で当時の関係者に確認をとったところ、こういった検討委員会は今回が初めてで、実際になかったという話があった。

また委員から「1 学年の生徒数が 8 人というのが 2 年続くと、小学校が合併になるんじゃないかという噂を聞いた」という話があったが、これについては埼玉県学級編制の特例で、3～6 年生までの間で 2 学年が合わせて 16 名だと 1 学級になり、そこで複式学級の編制になるが、複式学級になるからといって直ちに統合というわけではないとの説明をした。

また、新 1 年生のシミュレーションだと思うが、「2030 年に東児玉の小学校の 1 年生が松久小を逆転する。だんだん東児玉のほう越来越少くなっていくというのが疑問に思う。」という話があったが、現在までの人口の推移や、今の各年齢別の人口等を予測していった結果、東児玉の方が松久よりも減少の幅が大きいという想定をしている中で、逆転する可能性もあるということでシミュレーションしたという説明をした。

また、大沢小学校の新 1 年生のシミュレーションで、「2034 年から新 1 年生 7 人という数字が出ているが、そうするとどうなるのか。」という質問については、学級編制の特例から確認し、7 人と 3 年生と 4 年生を合わせて 14 人になり、16 人に満たないので複式学級になる。5 年生と 6 年生であっても同様だということで、このまま本当にシミュレ

	<p>ーションの通りに進んでいったら、複式学級になることもあり得るということを説明した。</p> <p>今後のスケジュール等については、第1回会議からおおよそ40日ぐらいで次回会議をというかたちで、おおむねスケジュール通りで前年度は進んだ。</p>
委員長	<p>第1回のところで、流れで1回切ってよいか。</p>
事務局	<p>はい。その他のところだけ説明する。</p> <p>会議録の仕様は概要録で、会議の署名は、名簿順に2人ずつ上から選任しており、次回検討委員会の日程は、その都度会議にて諮るということになっている。</p>
委員長	<p>1回から6回まで全部やっていると、頭の中が混乱するので、1回ごとに整理をしていきたいと思う。</p> <p>第1回のポイントは4点だと私としては思っている。</p> <p>まず1つは、この会議はより良い教育環境と充実した学校教育の実現のための適正規模、適正配置を検討する委員会なんだということ、これが大前提である。</p> <p>そして文部科学省、国ではその適正な規模や適正な配置をどう考えているかということで2点目になるが、まず適正な規模として、小学校では12学級～18学級くらいがいいというようなことを文部科学省は言っている。</p> <p>それから、3点目のポイントとして、適正な配置というものから、児童の通学距離は概ね小学校では4km。これを目安にするといいのではないかということを示している。</p> <p>そういうことを念頭に、美里町の3つの小学校の子どもたちが今後どう変わってゆくかということを経済局の方からシミュレーションで見せてもらったところ、令和15年（2035）年程度になると、大沢小学校の方が1桁になって、かなり少なく</p>

	<p>なるということが示された。</p> <p>また、途中でもあったが、そういうふうになくなって小さな学校を存続するためには、「複式学級」といって2つの学年を1つにして授業を行わなければならない。そういう状況になっていくということで、皆さんに理解をいただいたということである。</p> <p>1回目では主にこの4点、これをしっかりと理解したうえで話を進めましょうということで、2回目に入った。</p>
委員	<p>複式学級っていうイメージがなかなか湧きにくい、先生が一人いて、児童が例えば3年生と4年生が一つの教室に居るわけか。</p>
事務局	<p>県費負担の教職員で考えると、そのとおりになる。1人の先生が、2つの学年を見るという。</p>
委員長	<p>例えば3年生・4年生を1つの教室にまとめて授業をやると、1人の先生がまず4年生に教えている場合は、3年生は自習になる。逆に3年生に教えている場合は、4年生が自習になる。</p> <p>1人の先生しかいなかった場合は、こういった課題が出てきてしまうというのが「複式学級」である。</p>
委員	<p>だいたい分かったが、そうすると早い話、受けられる授業の内容が時間的に半分になってしまう。それはどうなのかと思う。複式学級は負のイメージが結構強い。今の内容を聞くと、まったく負の内容ばかりで、良いところは何か。</p> <p>先生が1人で済むという経費のところでは非常に良いところだろうけど、児童にとってみると、いい事はあるのか。</p>
事務局	<p>子どもたちにとって良いことを考えれば、上の学年が下の学年の面倒を見たりということで、自主性が育っていくとか、思いやりの心が育っていくところ、1クラスでいるのとちょっと違うやり方であるかなとは思う。</p>
委員長	<p>それから、複式学級になっても学校が残るという</p>

	<p>ことは、地域にとって「地域の文化の核が残る」ということにもなる。その学校があることによって、地域で学校に集まっているんな事をやったりとか、そういうことは利点としてあると思う。</p>
委員	<p>私は大沢小学校の卒業生で、今この人数を見させてもらおうと、啞然とする人数に減ったなど実感としてある。それが人口が減少していく過程において、やむを得ない教育のかたちなのかなってというのはどことなく分かる。先ほど言われたように、上級生と下級生が一つの部屋で授業を受けることによって、先輩が後輩を見るという思いやりの部分は十分分かるのだが、教育という面ではかなり遅れてしまっているんじゃないかという心配もある。</p> <p>時代とともに人口が減少するのは分かりきっていることだが、選択肢はそれしかないのか。</p>
事務局	<p>どうしても定数というものがあるので、県費負担教職員だけでその定数になってしまっていれば複式学級になる。</p> <p>あるいは適正規模ということで小学校の統合が行われるという、その2点しか今のところはないというお答えしかできない。</p>
副委員長	<p>私も正直よく分からない。私は忘れるぐらい昔に小学校を卒業したが、当時は、東児玉小学校は1学年が確か150人くらい。1クラスが50人というかなりの規模だった。そういう意味では東児玉の児童数はとんでもなく減少している。</p> <p>こういう適正な規模・配置等を検討していくのは、相当な工夫が必要となる。そこで頭を捻ろうという委員会じゃないかと思うので、単純な解は見いだせないと思っている。</p> <p>例えば大沢小学校が、2035年に新1年生が7人という、かなり悲観的な数字が出ているわけだが、複式学級の問題点等を考えると、「すわ、統廃合だ」というそんな単純なことで考えるべきではないと私は思う。</p>

学校というのは、子供達の教育の場であることもさることながら、やはり地域コミュニティの核としての存在というのが大きなものとしてある。例えば災害時の避難場所だとか、地域住民の運動の場として利活用できるとか、いろいろなそういう要素があると思う。

だから、即統廃合というふうに考え、それしかないとなってしまうと、非常に短絡的な議論になってしまうのではないかと思う。そこはどうしていくのか。

複式学級の問題も、メリット・デメリット両方があると思う。であれば、デメリットはどうやって補っていくか、メリットをどうやって生かしていくかっていう議論の方向に持って行けば、なんらかのアイデアが出てくるんじゃないかなという気がする。

人口のシミュレーションで、統廃合は避けられないようなイメージで進んでいくのは、私はちょっと危惧する。やはりそれは最後の手段である。

そういった関係で、私もない頭を捻ってみたいと思うわけだが、そういった方向に持って行った方がいいと思う。

委員長

複式学級が悪いとかそういうものではなくて、複式学級でも、上下の関係で教えあいがあるとか、面倒見合いがあるとか、そういったこともある。

また、実際に複式学級を継続している三沢小学校を、事務局の方で見てきてもらった。当然、県の費用で負担される先生は2学年で1人だが、町で教員を雇って充てることで、3年生には3年生の、4年生には4年生の授業をやるということが行われていた。

ただ、人数が少ないがために、例えば体育でバスケットボールをやったり、サッカーをやったりするっていうのは、どうしても人数が必要だから、その時は3年生と4年生を一緒にやる等の工夫があるということ、この場で示してもらった。

だから、複式学級が全く駄目なもので課題があり

	<p>すぎるということではなくて、それをうまくやり繰り返をする術があるんだということで、委員の皆様にはご理解をいただいた。</p> <p>いっぺんに新たな委員さんに追いついてもらうのは非常に大変なので、1回ごとに切って追いついていただくというようにしていきたいと思っているが、遠慮なく今のような質問を出していただき、その点については、こんなふうに継続した委員の皆様さんたちは話し合ったということで、共通理解を深めていければいいと思う。</p> <p>人数だけではなく、通学の事も出た。これについては事務局の方から、通学についてはこんな意見が出たというのを話していただきたい</p>
事務局	<p>通学路については、まとめの資料の4ページの第3回会議で出てきた。この回においては、美里町立大沢小学校に視察に行ったが、通学路を周りながら大沢小学校に向かうというかたちでルートを組んだ。地図等は第3回の資料についているが、その中で通学路についての危惧等がいろいろあり、意見等があった。</p>
委員長	<p>2回目の会議の様態を話してもらえるか。</p>
事務局	<p>第3回の方は改めて説明するとして、資料の3ページ、第2回会議の説明をする。</p> <p>先程来出ている、適正規模・適正配置の概要について、国の資料である「公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」に基づき、適正規模・適正配置の国としての考えを説明した。</p> <p>【資料1-2】が概要であり、テキストをすべて読むのは困難だと思うので、概要の方で主に説明した。手引きについては、それぞれの地域の実情に応じて、学校の統合や、小規模校をそのまま存置させていく場合に充実していくためにはどうしたらいいか、そういったものについても踏み込んだ資料となるので、そういった中身から説明した。</p> <p>学校規模の適正化については、児童生徒の教育条</p>

件の改善という観点を中心となるべきもので、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきものであり、その中で学校を統合するのか、または学校を残しつつ小規模校の良さを活かして学校作りをしていくかというのは、各設置者において、主体的に検討することが求められている。この会議においても両面から検討するというかたちでスタートしている。

通学距離の基準について、「手引きに添った形でやると国庫負担の対象になるのか、そうでない場合は、国庫負担の対象にならないのか」という質問があったが、あくまで手引きということで、必ず通学距離4kmで区切られるというものではなくて、ある程度市町村の実情を考慮された中で、国庫負担があると説明した。

また、この回において、近隣の適正規模等検討委員会でどういった動きになっているかという部分について、【資料2-1】で廃止になった学校や新設になった学校の一覧を、【資料2-2】で統廃合の県内の状況を、【資料3】で近隣市町の適正規模等検討委員会でどういった動きになっているかということの説明した。

北部地区12市町のうち、適正規模等の検討がなされている、または検討中が6市町あり、熊谷市が特に具体的な動きがあったということで示している。児玉郡市内は、本庄市・上里町は予定がないという話だったが、神川町は美里町と同時期に検討委員会が始まっており、神川の方は進行が早く、答申したという状況である。

熊谷市の事例はどういった事例なのかという質問があったが、成田小学校・星宮小学校の統合が検討されたということで、当時の原案によると、片方の学校に通学をするということで、もう片方はスクールバスを利用して通学することが予想されるという説明した。

また、この時に義務教育学校と小中一貫校について

	<p>での説明をして、義務教育学校というものは小・中合わせて9学年の校務を1人の校長が司り、教職員は基本的には小学校・中学校の両方の教員免許を所有している人が配置されているのに対して、小中一貫校においては、それぞれの学校に基本的には校長がいて、その小学校と中学校、それぞれ所属する学校の免許を教職員が所有している状況であるというところである。</p> <p>義務教育学校と小中一貫校という二者択一ではなく、3小学校でこのまま継続していくということもいろいろ考えながら検討していくという話をした。</p> <p>またその中の意見交換で、「同じ敷地内に9学年いるのが理想形だと思うが、例えば小中一貫校で小学校と中学校の敷地が離れていても、小中一貫校として成り立っている学校があるか」という質問に対して、次の会議で京都府・広島県・新潟県に実例があるという説明をした。</p> <p>また、「美里町の小学校・中学校は、こういう教育であるのか」という質問に対しては、美里町は「小中一貫」という教育ではなく、小学校・中学校がそれぞれあり、それが連携しあう「小中連携」というかたちの教育を行っているという説明をした。</p>
委員長	<p>今事務局から第2回の会議の説明があったが、この第2回の会議ではポイントは2つ。</p> <p>実際に大沢小学校の通学路、大沢小学校に行って学校の様子を見てみたというのが1つ。それから、子供が少なくなってきた統廃合にはどんな形があるんだろうということで、少し先を見て義務教育学校だとか小中一貫学校だとかそういうものを勉強をしたというのが主な柱になる。</p> <p>その中で私の印象に残っているのは、やはり大沢小学校の校区の中でも、円良田地区の子供たちが非常に少ない。円良田地区の子供たちについては、地域だけでなく親族の送迎とか、そういった面でかなり苦労しているというような話があったと記憶を</p>

	<p>している。</p> <p>実際に大沢小学校区の中の円良田地区だけではなく、松久小学校区においても、学校から2 kmを超える範囲では、かなり子供が少なくなり、一人で最後は帰るということで非常に心配な面がある。どこでもそうだが、最後は一人になるので非常に心配だというような声もあった。</p>
委員	義務教育学校だと教員免許の関係で、教職員確保が相当困難でハードルが高いと現状では考えられるのか。
事務局	その通り。
委員	かなり難しいか。
事務局	難しい。
委員長	<p>小学校と中学校両方の免許を持っているのが理想だが、現状でそれを全部そろえるというのは無理なので、当面は片方の免許でも良いと。小学校の先生が中学校の免許を持っていて中学校の指導ができれば、行ったり来たり頻繁になって、良いことが多いが、町教育委員会と教育事務所、県の教育事務所でうまくやれないと、なかなか難しいという部分はある。</p> <p>埼玉県に1校、義務教育学校を春日部市が作ったが、それについてはまた後ほど説明願いたい。</p> <p>第3回の会議では大沢小学校の通学路を周って、大沢小学校の状況を委員の皆さんが見てきたが。</p>
委員	今年度は、円良田のお子さんが2人通っている。
委員	<p>円良田地区は自分が小学校に通っている時からもちろん何人か来ていた。現在も別に距離的なものは変わっていない。</p> <p>何が変わったかという、たぶん両親が勤めるようになってしまった。以前、我々が小学校に通っていた時は、意外と農家さんが多く、両親が家に居た。それが今は両親が共に仕事を持っている。</p> <p>なかなか出迎えができなくなったりするので、遠</p>

	<p>くなっているようなイメージで、距離はちっとも遠くになってない。だから子供が歩けないってことはないと思うのだが、ちょっと物騒な世の中になったので、見守る体制ができなくなったっていうことを、距離的なイメージで「遠くなっちゃった」というふうな表現を使っていると思うのだが、距離は全く変わっていない。社会が変わった。</p> <p>見守ってくれる人がいなくなった。おじいちゃんおばあちゃんが同居している人はまだいいが。そんなイメージがある。</p>
委員長	<p>まさしく、距離が変わるということはありません。話で、社会情勢が変わったがためにお父さんお母さんも勤めに行ってしまうと、同居するおじいちゃんおばあちゃんも少なくなってきたという、そんな状況がある。</p> <p>だから子供たちにとっては、若干昔に比べると、見守りの目の数も少なくなっていて、車も増えているから、危ないところもあると思う。</p> <p>この第2回は、大沢小学校の通学や大沢小学校について見て回ったということと、それから小中一貫校、義務教育学校について勉強したということで議題を終わりにして、第3回に行きたいと思う。</p>
事務局	<p>第3回会議の説明だが、資料の4ページとなる。</p> <p>説明が前後してしまい、ちょっと混乱させてしまった部分については申し訳ないが、大沢小学校の視察は第3回会議で行っており、視察を行っているところの中で意見をいただいた部分がある。</p> <p>大沢小学校については、特に見守りボランティアに通学の時にいろいろ見ていただき、安全を保っている部分があるが、その中で「ボランティアはどれくらいいるのか」という話に対して、「10名を超える方が登録していて、毎朝少なくとも5名程度が校門近くまで来ている。そういった多大なる協力のもとに児童の安全が図られている」という説明が校長からあった。</p> <p>また美里町内の学校の中では比較的新しい校舎</p>

になるので、「施設・設備が非常に綺麗に整備されている。これが統合となったら、もったいないという気持ちがある。」という意見も出た。

また、小規模校であるため、視察当時一番多いクラスが19人、少ないクラスは9人で、「メリットとデメリットは？」という質問について校長からの話は、「コロナ禍においては少ない人数というのが密を避けるのにメリットな部分である」ということ、「少ない学年が9名であっても男女の仲が非常によいので、クラス運営に対して問題がない」という話があった。ただ、「クラス替えがないことによって、子供達的环境としてはちょっと固定化されてしまう部分がある」という話があり、それを解消するために「他学年との関わりを持っていく縦割りの活動を積極的に行っている」との話があった。

また、円良田地区を見に行ったら「ここから来ているの」というふうにびっくりしたという意見もあり、暗くて狭い部分もある中で「行き帰り歩いて帰って来るのはちょっと不安だな」という意見もあった。

また、大沢地区内でも人口が増えていきそうな部分と人口減少が激しそうな部分がある中で、「円良田地区やその辺りについては児童数が増える要素は厳しいと思った」という意見もあった。また円良田地区について、「道の高低差や細さがちょっと心配」で、また、「若い世代が転入してきたときに子育てはどうなるのかという心配がある」といった話があった。

また、現状では円良田の子は車で送迎してもらっているという話があったが、例えばそれで「自分の子供の友達を乗せて行った時に大丈夫なのか」とか、「事故があったのかとそういう心配がある」という話があったが、「今のところそういう話は聞いていない」との話があった。

また、そういった環境の中で「スクールバスが運行できればいいんじゃないか」、また「円良田地区の

ように、車で送り迎えをするというような登校の形をとっているようなところは他にあるのか」という質問があったが、基本的には朝の集合場所が決まっていて、そこで集まってから通学班で歩いて来ていて、円良田の子についても峠を下りた先の公園の所まで送ってもらっていて、そこから歩いて来ているというのが現状だという話があった。

また、人数が少ないから先生が子供達に声をかける回数が増えて、きめ細やかな指導という面でメリットがあるが、逆に子供が少ないことによって「この子には負けたくない」とかそういった刺激は難しいのではないかという危惧があり、「先生方はどういった工夫をしているか」という質問があったが、「関わりの固定化は否めないので、縦割りの活動を取り組んでいたりと、地域の協力をいただいている部分がある」ということで、地域の方に積極的に学校に来ていただいて、学校外から刺激を受けているという話があった。

体育の時、「人数が多く必要な授業はどうやっているのか」、また「校外行事とかで人数が必要な場合どうしているのか」という話では、「どうしても大きな集団でのゲームは学年だけではできないので、学年を2つまたいだり、また林間学校については松久小学校と日程を合わせることによって、集団で取り組むものを一緒に行うという計画がある」という話があった。

「通学班の編成が大変になりそうだ」という質問については、「地域の方々・保護者の方々の協力で通学班を編成している」という話があった。

「手引きを見る限りでは、メリットよりデメリットの方が大きい感じがする」という意見については、「ボランティアや地域の方に協力していただけてやっている部分でだが、人口減少が加速していくといろいろと厳しい」という話があった。

大沢小学校については以上のような意見が出た。

第3回では、坂戸市立城山学園に事務局が視察に

	<p>行くにあたり、どういったことを聞いてきて欲しいかという質問をした。城山学園は小中一貫校で、1年生から9年生まである学校である。小学校1年生から4年生をⅠ期、5年生・6年生と中学1年生相当の7年生がⅡ期、中学2年生相当の8年生と中学3年生相当の9年生がⅢ期という学校である。</p> <p>「Ⅰ期の4年生がリーダーの役割をどう果たしているか」、「Ⅱ期は小学生と中学生と一緒に一つのグループになっている。Ⅱ期というグループになっているということで、中学校と小学校の先生の連携のことはどういったことで行っているのか」、また、制服や部活動のこと、通学班の編成、小中学校の指導体制等を質問してきてほしいという話があった。</p>
委員	<p>統合となると、スクールバスが必要になると思う。統合になる前の段階でも、円良田地区でやるかどうかは別として。自分はシルバー世代に入って初めて分かったのだが、65歳以上はまだ働けるが働く場所がない。</p> <p>だから仮に、もしスクールバスの運転手をシルバー人材センターみたいな所から派遣が可能であれば、子供たちと高齢者の交流もできるし、なおかつ費用も安くできるのではないかというのが1つの提案である。</p> <p>やるかやらないかは別だが、もしスクールバスという選択肢がどうしても必要となった場合に、運転手をシルバー人材から派遣してもらおう。</p> <p>介護施設とかで、我々と同世代の一線を退いた人間が結構運転手をやっている。</p>
委員長	<p>スクールバスについては、もし町のバスと同じような形で使うとこれくらい費用がかかるという説明は以前にあったか。</p>
事務局	<p>スクールバスの費用については、この後の会議で出てくると思うが、今話にあったようにシルバー人材センターを活用するということだが、例えばマイクロバスとか、特に大沢方面は道が細くなるので、</p>

	<p>そういう小さいバスを活用し、その時はシルバー人材センターに運転手をお願いするというのは可能となるかもしれない。今その辺は少し調べているところである。</p> <p>あとはシルバー人材センターで運転をする年齢制限が、確か70歳までというのがあるようだが、その辺は相談したいと思う。</p>
委員長	<p>現状では結構通学班を組むのが大変だというのが出ていた。校長から、学校だけで通学班を編成するのは難しいので、地域の方に頼んで、保護者に頼んで、うまくやってもらっているという、そんな感じだったか。</p>
委員	<p>はい。</p>
委員長	<p>では、第4回の説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>第4回会議においては、第3回会議で視察すると予告をした坂戸市立城山学園について、10月23日に事務局で視察を行ったので、その報告からスタートした。</p> <p>坂戸市立城山学園は、既にある小中学校を組み合わせさせて教育を行う、小中一貫校になる。施設一体型で同じ敷地内に小学校と中学校があり、元々の中学校のところに小学校1年生～4年生が入るための新設のプレハブ校舎を建てて、そこで教育を行っている学校になる。</p> <p>こちらは小中が一緒になっているところではあるが、全校児童128名、生徒79名ということで、小中合わせても比較的小規模で、各学年1クラスという学校になる。</p> <p>前回3回で出てきた質問をしてきており、そちらは視察報告のスライドを印刷したのを見ていただきたいが、1年生から4年生が第I期というかたちでやっており、「一番上である4年生がどうやってリーダーとしての役割を果たしているか」という質問に対しては、その4年生が入ってくる1年生の対応を行うということで、担任の指導以外にも自主</p>

的に4年生がそういった指導を行いながら、リーダー性が育っているというメリットがあるという話があった。

またⅡ期の5年生・6年生の小学校の理科の授業に関して、中学校の教員がその補助に入っているということだが、英語は中学校教員が1名しかいないので、市費で非常勤講師とALTを雇って対応をしているということである。算数の授業も常に中学校の教員が入ることは難しいが、空き時間に応じて入ることもあるという話があった。

そうやって小学校と中学校が連携しているが、教員が連携するにあたっての課題は、小学校教員と中学校教員の空き時間と職員室にいられる時間が基本的には違うということで、打ち合わせ時間の確保が難しい、そういったことが課題として挙がっていた。

8・9年生(中2・中3)の進路指導については、ブロック朝会で進路指導を行っており、8年生も中だるみという現象は起こっていないということだった。

部活動については、小学校5年生から入れるということだが、強制ではないということだった。大会につきましては、7年生以降が中体連の大会に参加することになっているということである。学校として、少子化が進んでいるという事が大きな課題であるということだった。

また、小中学校一緒になっているが、小学校と中学校の文化の違いが、当初は色々出てきたところだが、だんだん話し合いの中で意思疎通ができるようになってきたという話があった。

この報告での意見交換で、「小、中の文化の違いとは何か」という質問に対しては、教員が職員室にいる時間が違う。また1つの教科を教科担任が授業をする中学校と、担任がほとんどの授業をする小学校で、子供の見方が違っていたという話があった。

また、1年生から4年生用の校舎はプレハブで建

てたということだが、凶面だと窮屈な印象を受けたという話があったが、事務局職員が実際に行ったところでは、そんなに窮屈には感じなかったという話をした。

また価格的なもので、机や椅子、エアコン等を全部含めて、レンタル一式で10年間1億円という話がある中で出て、建物だけではなくて備品も含めてレンタルでできたという坂戸市独特の方法だと思いが、そういった話があった。

校舎設置にあたり、1～4年生のプレハブ校舎をなぜ建てたかということだが、元々の中学校の設備だと、水道やトイレ等の高さの問題があり、小さい子が使いやすいように、プレハブ校舎にちょっと低い設備を作ったということが話としてあった。

またこの時には、複式学級についていろいろな意見があったので、近隣の皆野町に三沢小学校という複式学級を実際に行っている学校があったので、そちらにも急遽事務局で視察に行ったので、その報告をした。

国からの手引きでは、複式学級は教育上の課題が極めて大きい部分があり、適正規模の検討が必要であるというふうに載っているが、三沢小学校については全校児童35名で、3・4年生、5・6年生が複式学級ということでやっている学校になる。

教員数11名程度で学校をまわしており、指導内容によって他学年で指導することが困難な部分があることから、複式解消のための非常勤講師だとか、エキスパート教員、学校教育指導員兼理科実験観察アシスタント、小学校英語指導員といった方については、町の費用で追加で派遣しているということ、また学習支援員等でフォローしているといった話があった。

三沢小学校においては、3・4年生、5・6年生を固定して複式にすることで、学年が上がった時にそこを固定しておけば、例えば4年から5年に上がった時にはメンバーが変わって、クラス替えをした

効果を得られるということで固定制にしているということであったが、見込みでは令和4年度に1・2年生も含めて全部複式学級になるという話があった。

その中での意見交換で、「小中一貫校の話、複式学級の話があったが、この会議は小学校3校をどうするかのための会議だと思うが、小中一貫校を考えての会議なのか」という質問を受けたが、小中一貫校等も含めて色々な在り方を研究していく適正規模等検討委員会であるということで、小中一貫校ありきではなくて、いろいろな可能性を検討していくというスタンスで考えているという話をした。

「複式学級で授業をやることについては、個々に目が行き届くというメリットがあるかもしれないが、2学年を一緒にするということが難しいという部分が出てきている。これからの少子化等も踏まえて、地域とともにある学校づくりを考えていかななくてはならない」という意見があった。

また、「複式学級という形で学校を残すためには、教育委員会としてそれなりに人を確保しなければいけない。また人を確保するだけでなく指導を工夫していかないと、この三沢小学校のように運営はできない」という話があった。

「美里町の小学校の児童数は、1年生から6年生まで3校合わせても全部2桁であるということで、3校合わせても国で示す標準学級ぐらいというのが実態である中で、限られた予算をどうやって有効に使っていくか、皆様に知恵を出してもらわなくてはならない」という話があった。

「複式学級については、2学年までなのか、例えば小学校全体で複式学級になったりしないのか」という話があったが、2学年が限度だという話をした。

「三沢小学校は統合の話はあるのか」という質問には、今のところ予定はないという話をした。また皆野町の小学校の状況について質問があったが、皆

野町は今、皆野小・国神小・三沢小という3校があり、皆野小学校という中心部にある大きな学校と、国神小学校という大沢小学校と規模が似ている学校、三沢小学校という複式学級ができていない学校の3校があるという説明をした。

大沢小学校は既に児童が少なく、委員の中でも「統合した方がいいのではないか」とその時意見があった。

「地元はどうやって意見を聞くのか」という話については、「この会議は適正規模と適正配置を美里町全体で考えて答申を出して欲しいと諮問を受けている会議であり、議論と根拠の下にまずこの会で答申を出していく。その答申については、色々な地域の方が理解をいただけるように答申をするのが使命である。当然今までの話で出た、学校というのは地域の文化の核として担ってきた部分があるので、そういったこともしっかり考えながら、我々は考えていかなければならない」という話が出た。

アンケートについてはこの後で話すので、割愛する。

あとは、「クラス分けができれば、いろいろ生徒指導上の対応ができると思うが、クラス替えがなく持ち上がりとなると、6年間固定である」というような話や、「子供達のことを考えるとある程度の人数が必要ではないか、またそれとは逆に減少傾向のある学校にもその学校なりの魅力的な部分もある」という話、「複式という形は学校教育を行う側としては避けたい」という話があった。

また、「美里町の子供はグラフのように今後減っていくが、このまま学校の規模を維持していくためには、町費によって職員の配置をしていかなければいけないのは、費用負担になる」という意見があった。

～休憩 15:58～16:08～

委員

複式学級にするかどうかというのは、誰が決めるのか。数で自動的に決まるのか。複式学級は負のイ

	<p>メージが強いので選択肢から外したいという意見が多くても、数の理論で自動的に複式学級になってしまうのか。</p>
委員長	<p>はい。</p>
委員	<p>複式学級を経ずに、一気に統合という選択肢はないのか。どっちが早いかという問題があるかと思うが、複式学級の条件を満たすのが早いか、あとは単独の小学校で合計の児童の人数が極端に減るとか。どちらが早いかというよりも、数の理論で必然的に決まるのか。</p> <p>例えば2クラス7人以下になるのが早いか、1つの小学校でトータルで何人以下になるのが早いかとか、シミュレーションでどちらが早いかできるような気がする。</p>
委員長	<p>複式学級は決まっている。先程から話をしたように、2学年で16人に満たなければ複式学級。</p> <p>でも学校の存続というのは、市町村が決めることになっている。設定者である市町村が、統廃合かあるいはそのまま残すか考える。今回の場合だと、美里町が考えなくてはならない。だから、住民の皆さんの十分な意見を汲んだこういう委員会で意見を述べる、そしてまとめる。</p> <p>ただ、住民の皆さんからすれば、どうしても自分のところの学校は残していきたいという思いがあるので、きちっとしたデータとか理論とか、そういう根拠に基づいて答申を我々が出して、それで考えていただくという形になる。</p> <p>だから、去年からずっとここでやっている皆さんも、よく勉強しないとしっかりとした答申は出せないということで、複式学級も学び、小中一貫校も学び、義務教育学校も学び、どれが一番美里町には適しているんだろうかと考えている。</p> <p>またこの後も説明があると思うが、そういった形で第6回までは進んできたという経緯で、だから最終的には設置者である美里町が決めるということ</p>

	<p>である。</p> <p>先程の皆野町の例を申し上げますと、皆野町としては統廃合したかった。でも、住民が納得しなかった。だから三沢は残った。でもその前の金沢は、国神と一緒にすることについてOKが出た。住民の皆さんの賛成もあって、とりあえずOKが出たので、金沢と国神は一緒になった。これは住民感情もあるので、非常に微妙な問題である。</p>
委員	<p>児童の数からすると、一番最初の懸案事項は、大沢と松久か。先程の情報だと松久と東児玉が2030年以降逆転するみたいな情報もあったが、それは確実なのか。</p>
事務局	<p>あくまでシミュレーションで今までの推移を見た中で、そう推測されるということなので、もちろん町としても、先般できたスマートインターもそうだが、人口を増やしていこうといろいろやっていく中で、今回社会増を含めないとやったのは、そういった条件を省いた形でただ人口推移を見て推測しているということで、町の政策等によっていろいろ変わってくるところはあるので、逆転するかしないかっていうのは正直ハッキリとは分からないが、今の動きで見るとそういったことが考えられるということでシミュレーションをした。</p>
委員長	<p>複式学級で何とか学校を残そうっていうところで、いろんな質問が出てきたが、やはり県費負担教職員に代わる先生をどう確保するかっていう部分が、かなり議論の対象になった。はたして美里町教育委員会で、4人なり5人なりの人を確保できるのか。実際問題としてそういう人たちはどうなのかというのと、採用試験で県費負担教職員になれなかったとか、あるいは受けなかったとか、そういう方になる。当然、県費の教員は研修制度も充実しているので、時期が来れば研修をさせるわけだが、なかなか研修までさせられる時間と余裕がないというのが実情というのもあり、教員の指導力を確保するの</p>

	非常に難しいというのも話題の中で出た。
委員	<p>私事ではあるが、私の友人の奥さんは、いったん退職してから、正式な名前が分からないが、学校の先生の補助役をやっている。仮に複式学級になった場合、今の話を聞く限り半分自習って聞かされた時に、ちょっとそれは寂しいと思った。</p> <p>それはもちろん「複式学級ってそういうものなんだよ」と言われればそうだが、ちょっとなかなかそれは想像しにくい。「1年のうち半分は自習だよ」と言われると、真面目な子は勉強するかもしれないが、自習って言われて自分はあまり勉強していた記憶が無い。友達と喋っちゃって。なので、どうなのかなっていう気がする。</p> <p>そういう時に、シルバー人材ではないが、補助教員みたいな人たちもいると思う。高齢化によって、健康で働ける人間は結構いる。実際まだ先生はたぶん現在は60歳で定年になっていると思うが、そこから5年間ぐらいはまだまだ現役、現役とは言わないまでも活躍できる年齢ではないかと思う。そういう人を補助教員として雇用する。</p> <p>一人の先生が2学年を見るのは、マジシャンでもない限り、結構難しいんじゃないかと個人的には思う。その辺は視野にないのか。複式学級だから先生は一人なのか。</p>
委員長	実際に美里町は学習指導員を入れている。その辺のところからちょっと話をいただきたい。
事務局	今現在、美里町は学習支援員を学校に付けている。仮に例えば複式学級になった時に、そういった人材を付けられるかっていうのは、鍵になってくる部分であると思う。いろんな危惧されているような事をフォローするために、そういった支援の方を入れるっていうことは、町としての課題になってくると思う。
委員長	校長先生方から、複式学級について伺いたい。
委員	実際には美里は複式学級になっていないので、他

の町の話を見ると、例えば2学年にまたがっている場合は、担任の他に町雇用の支援員なり町雇用の教員なりが入って、2人体制で1学年ずつ様子を見ながらやっているという話を聞く。

教員が60歳で退職したときに、実は今教員不足で若い先生が増えてきている中で、産休代替・育休代替を探す時も、なかなか正規の仕事として、例えば担任の先生をお願いするということになると、退職された方は1回退職して責任感から逃れた時に、もう1回それを責任を持ってやるという自信がないということで、なかなか受けていただけないのが現状で、教員の世界も随分人手不足が今言われている。これは埼玉県だけでなく、日本全国でそういう状況。学級担任がなかなか見つからないといった状況が続いているという学校もあると聞いているので、なかなかその辺の確保が現実的に難しいのかなど。

ただ、町の学習支援員のような補助的な役割であれば、「協力しながらやりますよ」と受けてくださる方が美里町にもいるし、うちも1人退職された後の先生が入っていただいているので、そういう先生の補助を受けながら複式学級というのが、もしやっていくとすると現実的になってくるのかなど。

この後教員になる学生が飛躍的に増えて、退職された方あるいは教員の方の退職年齢が上がっていくという状況があれば、世の中の時代が変わるんだから、また考え方も変わってくると思うが、現場からするとそんなところが現実的な考え方だと思う。

委員長	現状では今、校長先生が話してくれたような状況である。かなりの数が美里町でも退職教員としてお手伝いいただいているという状況である。 それでは第5回の説明に入る。
事務局	では第5回会議をピックアップして説明させていただきたいと思う。 第5回会議においては、東児玉小学校の視察を行った。その中で大沢小学校との差を主に見たと思う

が、意見をまとめると、やはり大沢小学校と比較して、東児玉小学校は多いところで30人以上入っているクラス等もあり、コロナ禍の中では混みあっていて大丈夫なのかという、そういった面での心配を感じた方が多かった。

また、昨年度トイレを大規模改修し、綺麗なトイレになった。そういった部分と、それに対して床の劣化が進んでいるとか、木が割れているとか、トイレは綺麗になったが、まだ古いところがあり、ちゃんと改修していくにはお金がかかるのではないかという危惧があるという意見があった。

人数が多くは感じるけれども、活気があるという面では非常に良いのではないかと、子供達には活気があった方が良いのではないかと、そういった意見もあった。

数が多いということで、色々な性格の子供達と接触することができて、色々なことを学び取ることができる、そういった部分がメリットとして感じられるという意見もあった。

主な意見としてはそういった部分で、東児玉小学校を見た後に、施設を維持する場合・新設する場合の費用について踏み込んだ話をした。

美里町においては、令和2年3月に美里町公共施設個別施設計画を策定した。その中で施設を長寿命化してなるべくもたせていくというコストの見通しのグラフがあり、中学校を含めた学校全体で、35年の計画で60億4千万円程の費用がかかるという計算をした。その中のデータから小学校のみを分離すると、35年間でおよそ40億円弱かかるという試算が出ていると説明した。

それに対して、仮に新設した場合、そういった費用を現時点で算出するというのは非常に難しいところである。学校の規模も何も全然決まっていないが、ただ仮定はしなくてはいけないということで、総務省で出していた公共施設更新費用試算ソフトの単価で、学校教育系施設の単価が1㎡あたり33

万円というものがあるので、それを利用して仮に東児玉小学校の教室・体育館・給食室の面積を合計して、その33万円の単価を掛けると、13億6千万円という試算になる。それがあくまで最低ラインで、それプラス附帯設備や、プールがあったりと実際はそれ以上、新設する新しい校舎を造ることになるともちろん土地代もかかってくる。

そういったことを含めてのおおよその金額を算定したところである。

ここでは併せて、今までかかってきた修繕費をリストにして出した。年々学校に関する修繕費は増えている部分があり、令和元年度については大きな修繕がなかったにもかかわらず、年間1千万円以上修繕費がかかった。施設が古くなっていくにつれて、修繕費がどんどん大きくなっていく。それプラス長持ちをさせていくためには大規模改修が必要である、そういったことをここで説明した。

その中で、意見等がいろいろ出ている。

「今ある校舎を維持していくのに非常に金額がかかる。新設をすれば、維持費に関しては当面の間抑えられるという部分があり、新設の方が安くなるのではないか」ということも話として出た。

ただ「統合になった場合は児童を送迎したりして、まだまだ多大な金額がかかるのではないか、そういったことも含めて比較する必要があるのではないか」という意見もあった。「スクールバスのシミュレーションが欲しい」という意見があったので、この後の回でそういったシミュレーションをしいる。

全体的な意見としては、これから小学校を修繕していくより新しい校舎を造る方が費用面ではトータルでは安く済むのではないかという意見が出てきた。

続いて、同規模自治体の事例についてということで、その前の委員会では、我々は県内の坂戸や春日部を実例で出したところであるが、同じような事例

が県外の近い所でないかという質問があった。人口規模が同じような所でいろいろ調べていたところ、長野県の佐久穂町というところが合併で生まれた町ではあるが、小中学校を統合して出来た学校があるということで、実例として挙げた。

こちらについては、小学校4校、中学校2校の今後について検討がなされて、小学校1校、中学校1校に統合して、新設校舎を建設すべきという提言がなされて、我々が考えるとかなりのスピードで新しい学校が出来たというふうに伺っている。地域の方の多大なる理解のもとに学校を造っていったという話がある。

かなり新しい施設ができていて、プールが小中学校別々にあったり、全天候型テニスコートがあったりというお金のかかった施設になっているが、恐らく合併特例債等を利用して建てられたものではないかという話であった。

美里中学校については約10年前新校舎を建てたところでございますが、そちらが当時13億ぐらいであった。その頃は国からの補助金が50%付いたということだが、現時点で新しい校舎を造るにあたっては、実際補助金が見つからない部分があるので、起債等でいろいろ分からないところで補助が付くものはあるが、昔のような補助金っていうのはなかなか見つけづらい部分があるので、タイミング良く適切な補助金を見つけていくことが必要であるという事務局からの話もあった。

この中で、「佐久穂町では非常に綺麗な小中学校が出来ていて、お金が都合がつくのであれば、美里町にもそういった良い環境の学校を造ってあげたい」という意見があった。「どうせもし新設をするのであれば、せっかくだったら良いものを造ってあげたい」という、委員の方々の意見があった。

委員長

今事務局の方から第5回についての説明があったが、町内の2校目の学校として東児玉小学校を見て回った。大沢小は教室が38年、東児玉小は43

	<p>年、松久は48年経過している。長寿命化計画ということで耐震工事が行われているわけだが、大沢小はよく直っていたからか、東見玉に行ったら「随分古いな」と委員が感じて言葉にしていた、これが私の実感である。</p> <p>その中で、校舎の寿命というのもちろんと考慮しなくちゃならないということで、事務局に校舎の寿命とか校舎の改築とか校舎の新築とか、どれくらい費用が掛かるんだろうということで調べてもらったというのが、この第5回の中心の内容になる。</p> <p>一番古い松久も見なくてはどうということ、第6回で松久に行くわけですが、そのところも併せて説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>最後の第6回会議については、松久小学校の視察を行った。</p> <p>松久小学校を視察した感想として挙げたのは、「松久小学校については大規模改修が入った時に、改修してきれいになった所と造ったままの部分が混在していて、とてもよく清掃がされているけれども、かなり限界があるかなという印象を受けた」という方が多かったと感じている。</p> <p>また、「ちょっと施設の狭さを感じた」という意見もあり、また「用具等も古いものを大事に使っている」という意見があった。</p> <p>松久小学校は規模として、美里町の中では真ん中の規模になるところであるが、クラスの人数が30人前後という部分については、皆様からは「望ましい数なのではないか」という意見が多く出ていた。</p> <p>「30人前後だとクラスの活気もあるし、すごく多いという感じもしない。ちょうどいい人数ではないか」という話があった。「これから35人学級へ移行していくと思うが、そういった中でちょうどいい規模だ」という意見があった。</p> <p>視察の帰りには、会議までちょっと時間があつたので、通学路を見たり、広木の粉木地区の入口くらいまで行ったが、その中で「遠くから通う子供達こ</p>

そ歩道がない。街から外れていくと歩道が少なく、歩いて来るのは大変だな」という、そういった意見もあった。

また義務教育学校である、春日部市立江戸川小中学校については、事務局が1月19日に視察に行ってきた。その報告をした。

江戸川小中学校についても、先程の城山学園と同じように、1～4年生、5～7年生、8年生・9年生という3つのグループに分けて指導を行っているところである。こちらも1～4年生のジュニアクラスは、新設の平屋建ての校舎が建てられており、特徴としては、子供達が登校する昇降口の他に、窓から直接グラウンドに出られるという状況になっており、そちらにも靴箱が設けられていて、直接校庭へ出るというのが大きな特徴であり、普通教室は廊下のスペースが非常に広く感じられるという印象を受けた。

教職員については、5・6年生に対して小学校担任が半分、中学校の教員が半分の教科を担当しているということであった。5・6年生が行う教科については、その年の教職員の配置によっていろいろ変わっていくということであった。

こちらで特徴となるのは、スクールバスで全員が通学をしているところである。またこちらは、小規模特認校ということで、学区外の子供が来ているというのが大きな特徴になる。学区内の子はスクールバスで通学し、学区外から来ている子は保護者が送迎したり公共の交通機関で通学を行っているということであった。中学生は、全員が自転車で通学をしている。

小学生と中学生が一緒にいることのメリットは、小学生がいることで中学生が穏やかになって、またリーダーとしての範囲が広がる、中学3年生になると一番下も見る9学年のリーダーということ、かなりリーダー性が育っているという話があった。

こちらの学校は開校するにあたり、準備委員会と

というのがあり、地域住民の十分な話し合いの下に、学校の位置や校舎の内部等を決定したという説明があった。

主な質疑として、「どういった費用が掛かっているのか」という質問があったが、正確に調べてきたのは、スクールバスの運行について、平成31年度から5年契約で、1,610万円という話を伺った。

また「小規模特認校というのはどういったことで決まっているのか」という話があったが、こちらはあくまで市の教育委員会から埼玉県に申請をして認められた所ということであった。

続いて、スクールバスの費用について、前回調べるようにという話があり、仮の算定をした。実際にはどういったスクールバスの運行をするかというのは決まっていないが、あくまで金額を出すための1つの条件として、中学校付近を中心として試算をした。

1つの案として、東児玉地区については、一旦東児玉小学校に子供が集まって、そこから大型バスでピストン輸送を2往復する。松久・大沢地区については、エリアが広く、点在しているということを想定して、中型バス2台で2コース周るという仮の想定をした。

大沢地区は、中心部から通学距離3km以上になるところが大幅にあると思われるので、学区全体をフォローし、また松久小学校で遠い部分をフォローするというような仮の前提条件を立て、業者に見積を依頼したところ、東児玉の大型バスについては1日107,000円、松久・大沢地区については中型バス2台で186,000円という仮の想定が出て、それを日数で積み上げたところの計算を、費用想定として資料に計上したが、年間で6,000万弱くらいかかるというのが、見積の段階なので最大の額として算定した。委託の中で実際の費用というのは変動する部分もあるし、先程の江戸川小中学校の例からいうとかなり安価で行っているので、あく

	<p>まで最大値で算定したということで説明した。</p> <p>また最後に保護者アンケートについてだが、事務局として適正規模・適正配置等に関する保護者アンケートを令和3年度に実施することを検討しており、その実施方法について、皆様の意見を伺ったところ、検討委員会の答申とは切り離れたかたちで実施するのがいいのではないかという話があり、検討委員会で答申をいただいた後に、答申の内容を示しながら住民の皆様アンケートを取っていくという形で検討することになった。</p>
委員長	<p>第6回の松久小学校の視察、そして埼玉県で唯一の義務教育学校、江戸川小中学校についての視察の報告があったが、ここでは具体的にスクールバスを使ったらどれくらいかかるのか、というのが金額で出された。</p>
委員	<p>15年間で20億円かけて現状維持をしているとあるが、1年間に1億ちょっとかかるっていうのはどうなのか。現状維持の修繕なのか。</p>
事務局	<p>それについては、今の建物が相当年数経過しているので、大規模改修を入れて維持をしていくということを想定していて、大規模改修には億単位・10億単位という大幅な金額がかかるという中で、そういったものも含めて10億とか20億円という形なので、毎回1億ずつかかっていくというよりは、いったん長持ちさせるために多くの金額をかけて大規模改修をして維持していくという金額になっていると理解している。</p>
委員	<p>参考までに教えてもらいたいが、小学校は冷房設備は完備になったのか。</p>
事務局	<p>冷房設備については、普通教室には入っているが、コロナの補助金がついて、特別教室にも令和2年度において整備して、概ね教室にエアコンは入っている状況である。児童が使用する教室に関しては、概ね入っているという認識になる。</p>
委員	<p>最近よく取り上げられているのが、トイレの洋式</p>

	化。小学校は、私はもう子供が大きいので行く機会は無いが、洋式化はどのくらい進んでいるのか。
事務局	校舎内で児童が使うトイレについては、今回令和2年度に東児玉小で大規模改修をした。和式と洋式が一緒にあるところはあるが、順次洋式化を進めているところである。
委員	参考までに、全部を洋式化しようという案もあるかと思うが、今進めている方向性としてはどうなのか。
事務局	これからやっ払いこうとしているのは洋式化だが、やはり中には潔癖症の子もいて、洋式じゃなくて和式が良いという子もいる。後は社会に出た時の勉強ということで、和式も設置してあるという学校もある。ただ東児玉小については、今回全て洋式化ということで工事をした。
委員	現状としては半分ぐらい進んでるというイメージなのか。それともまだ半分もいってないのか。
事務局	半分以上はいっていると思う。和式はいくつか残っている。こういうのがあるんだと勉強してもらいたいということで、残っている。
委員	教室の冷房化に関しては100%完了しているのか。
事務局	子供たちがいる普通教室については、もう100%入っている。特別教室についても、ほぼ入ってきている。
委員長	<p>1回から6回までずっと説明をして、それぞれ切ってご質問を受けてきたが、全体を通して質問があればお願いしたい。</p> <p>質問が無いようなのでちょっと先へ進めたいと思うが、次回第8回と第9回で答申の案を練っていくわけだが、今のままだと叩き台がないので練りようがない。</p> <p>それで私が少し考えてみたのだが、こんな形で叩き台用の柱を作ってみたらどうかというのを、事務</p>

局に書いてもらいたいと思う。

まず、現状をしっかりと押さえるということで、現状を4点ぐらいで押さえることが必要だと思っている。

現状の1つ目が「①児童数と学級数の推移」。これは3校と、全部合わせた場合ということで考えていく。それから2つ目が、「②学校施設の耐用年」。3つ目が「③学校の配置」。4つ目が「④管理運営費」。

この4つを、もう1回現状を整理してみる必要があると思う。

その上で検討の視点というのを書いてもらいたい。5つぐらい考えている。

1つ目は「①適正規模」①を受けながら適正規模を考えていく。2つ目は、コンクリートの校舎は40年ぐらいと言われているが、先程の説明で長寿命化計画の工事をすると、60年とか70年とか伸びるらしい。でも、もう現状で48年とか経ってる校舎もあるので、そんなに長いこと長寿命化というのも難しいかと思うが、「②安心・安全の学校施設」。それから3つ目として、「③安心・安全の通学・学校配置」。それから4つ目として「④効果的な教育実践」。これは複式学級をこういうふうにやったら良いのか、あるいは小中一貫にした方が良いのかとか、あるいは義務教育学校にした方が良いのかとか、そういうことを考えるということである。

最後に、「⑤学校が地域社会で果たしてきた役割」という視点を入れていただければと思う。

当然、私達の答申は読んでもらう方々に分かりやすくしなければならないので、きちっと項目を立ててまとめる必要がある。そのためにまず現状をきちっと分析をするということで、データを伴って理解をする。そして、そのデータに基づいて5つの視点から考えていけば、自ずと一番いい答申というのが出てくるかなというふうに思う。

教育委員会には大変な宿題をお願いすることになるが、これまでの資料を上手に使いながら、叩き

	<p>台を作っていたけるとありがたいと思う。 教育長、いかがか。</p>
教育長	<p>了承。</p>
委員長	<p>こうすることでかなりボケていた視点がハッキリしてくると思う。特に⑤番のところあたりが地域感情、住民感情という部分で一番ポイントになる部分だと思う。ここのところは、将来の子供達のためにということを大前提に考えていかないとけないだろう。今は良くて、10年後20年後に子供を育てる保護者の皆さんや子供たちがどうなのか。そこまでちょっと思いを巡らせてもらい、話し合っていければと思う。</p> <p>今日は1回から6回までのおさらいということで、新しく委員になられた方々に共通理解を図っていただくために、こんな形にさせてもらった。</p> <p>次回は、教育委員会事務局にちょっと苦労いただき、データ等を整理してもらって、答申をまとめていく作業に入っていけたらと思う。よろしいか。</p> <p>それでは(1)経過についてということで、先を含めてちょっと話をした。</p> <p>(2)今後のスケジュールについてということで、事務局にお願いしたい。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールについて説明する。【資料2】をご覧ください。</p> <p>第7回については、本日5月14日に実施させていただきました。この後、次回こちらで答申の叩き台を作成し、議論いただく予定になっているが、今のところの目安として、あと2回ほど実施をさせていただければと思う。</p> <p>ただこれについては、正確な終わりは決めていない部分があるので、当面の2回はこれぐらいの日程で行うということを説明し、議論の深まり等によっては回数が増えることもあり得るので、それはまた皆様との相談で決めていきたいと思う。</p> <p>第8回は6月中旬くらい。ちょっと先にこちらで</p>

	<p>考えている日程を申し上げようと思うが、6月18日の金曜日を検討している。皆様の承認がいただければ、次回は6月18日に実施したいと考えている。それまでにこちらで答申の案、まず答申の1つの案を示したうえで皆様に議論いただきたいと考えている。</p> <p>ちょっとここで説明を加えるが、【資料3】については、答申を作っていく上で必要と思った資料を付けた。以前話の中で出てきたと思うが、町内の小学校にかかっている経費について、令和元年度の決算において、各校にかかっている費用はこれくらいであり、それを人口で割り、児童一人当たりにかかっている費用は、学校によってこれだけ差があるということを示している資料である。</p> <p>また、第1回の会議で令和2年度の5月1日現在の児童・生徒数を示したが、令和3年度の5月1日現在の児童・生徒数が出たので、【資料4】として提示した。</p>
委員長	第8回の日程は6月18日金曜日。時間の方は。
事務局	今回と同じく2時半で検討している。
委員長	結構時間がかかりそうな感じがする。
事務局	承認がいただければ、時間の繰り上げはできる。例えば1時半だとか2時とか。皆様のご都合がよろしければ。
委員長	<p>校長先生方の予定を考えると、2時ぐらいで。少なくとももうちょっと早い方がいいと思う。ちょっと早めて2時で大丈夫か。</p> <p>では、今回よりも30分早めて、2時ということでお世話になりたいと思う。6月18日金曜日の2時で。</p>
教育長	8月も決めたらどうか。
事務局	第9回は8月上旬と設定しているが、今のところ8月6日の金曜日を想定しているので、併せて予定を空けていただきたい。

	教育長	時間は14時ぐらいでよいか。
	事務局	同じく14時でお願いしたい。
	委員長	慎重に審議をしていただき、ありがとうございました。議事の方は以上なので、進行を事務局にお返ししたい。
8	連絡事項	事務局
9	閉会	

上記は会議のてん末を記したもので内容に相違ないことを証するため署名する。

令和3年 月 日

委 員 _____

令和3年 月 日

委 員 _____